

U D L M

9

vol.350

September 30th
2024

Re : 団地

- p.2 わたしと団地
- p.3 理想の暮らし? / あたらしい風
- p.4 演習で見た団地・集合住宅たち
- p.5-6 秋修了生の門出

△ 演習のTAとして訪れたシャレル獲窪

Re：団地

東大都市工生にとってはもれなく馴染み深いであろう団地。進学してすぐの小さい集合住宅設計、最も苦しいと言われる3年Sセメスターの団地設計…我々の設計課題はいつも団地と共にあった。なぜあれほどまでに集合住宅・団地を扱うのか、一度気になって先生に聞いてみたことがある。答えは、「そこに基本的な要素が詰まっているから（意識）。」道路構成の考え方や住まいの考え方、駐車場の処理、コミュニティの捉え方、考えてみれば団地にはそ

れら全てが詰まっている。都市工学専攻の院試、即日設計においても集合住宅の設計が出題されていることも考えると、団地は都市を考える上での最小スケールとして捉えられるのだろう。当時は課題に必死であり団地に向き合えなかったが、最近になってそのおもしろさをじわじわと感じている。…ということで、本特集では改めて団地に目を向けてみようという気持ちで「Re：団地」とテーマをつけた。

わたしと団地

思い返せば、小学校中学年で一軒家に引っ越すまでは地元福島で団地暮らしをしていた。さらに、父が公務員で県内転勤が多かったため、官舎ではあるものの、福島県内さまざまな団地で育ってきている。まずは幼い頃のわたしと団地の思い出を振り返ってみる。

- ベランダで



2歳夏の写真。夏はベランダに小さいプールを出してもらって、同じ棟に住んでいて仲良くなったお友達とよく水遊びをしたのを覚えている。今お友達が何をしているのかはわからないが、当時は親同士も仲が良く、この団地に住んでいる間はしょっちゅう一緒に遊んでいた。

- 広い敷地で



敷地内にはたいてい広い芝生かコンクリートの広場があって、走り回ったり、自転車を漕いでただぐるぐる周回したり、草や石を使ったおままごとをしたり…遊具がなくても1日中遊ぶことができた。遊び疲れたらすぐ部屋に戻れるし、お母さんもとときどき様子を覗きにきてくれた。

- 小学校へ



小学校では登校班のような制度があり、朝は団地の前の集合場所に数人で集まって一緒に登校していた。東京の団地に住んでいた2年間はずぐそばに小学校があったので、放課後になると団地の公園で遊んだり、同じ団地に住む友だちの家に行ったりして過ごすことも多かった。

理想の暮らし、？

自分の幼少期を振り返っても、今自分が住むとしたら…を改めて考えても、団地での暮らしは結構理想的なんじゃないかなと思ったりする。特に郊外団地等には、都市から失われてしまった「くらしやすさ」を今も享受できる場所が残っているような。

み どり豊かなくらし

建てられた当時の植栽が時間と共に大きく育ち、豊かなみどりの空間を作っている団地が多く見られる。棟の前の広い空間が住民による自由なガーデンとして使われるのもよく見る景色。



△ 湖北台団地（我孫子市）

子 どもにやさしい

住民の目が近くにあって、子どもたちは安心して遊ぶことができる。敷地の中なら道路も遊び場にできる。思いっきり走り回れる場所が家のすぐ目の前に広がっているって最高だ。



△ 神代団地（調布市）
<https://codan.boj.jp/danchi/tama/jindai/index.html>
© 公園ウォーカー

ご 近所さんがたくさん

好き嫌いが分かれるところかもしれないが、団地に住んでいると人と関わる機会が多いと思う。たまにある掃除会、回覧板、小さな催し…さりげないつながりを感じるくらしが心地良い。



△ 左近山団地（横浜市）
<https://codan.boj.jp/danchi/kanagawa/sakonyama/index.html>
© 公園ウォーカー

あたらしい風



△ 左近山みんなのわ（横浜市）
<https://stgk.jp/JP/projects/sakonyama/>



△ 神代団地 手紙舎（調布市）
https://baaall.tokyo/feature_article/tegamisha/



△ 落合団地 MUJI × UR Paint Plan（神戸市）
<https://www.muji.net/ie/mujiur/plan/paintplan.html>



△ 団地キッチン田島（さいたま市）
<https://danchi-kitchen.com/>



△ 戸頭団地 IN MY GARDEN（取手市）
<https://www.ur-net.go.jp/chintai/college/201608/000009.html>

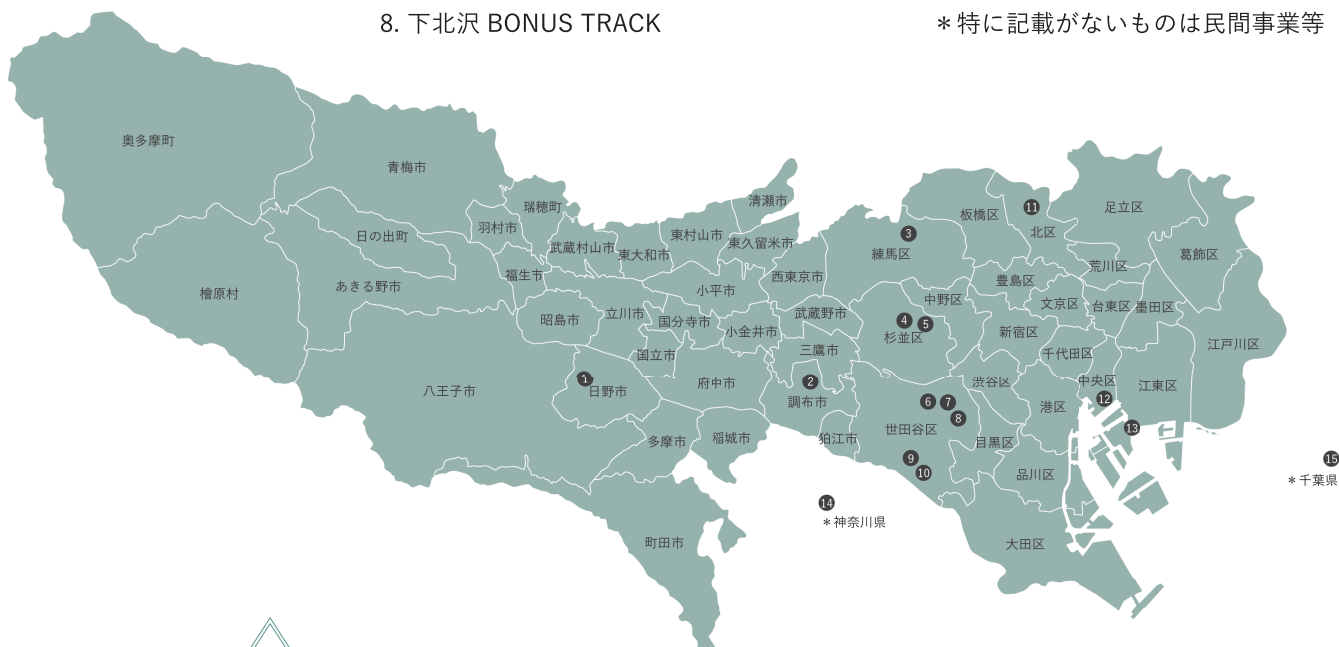
最近出会った「こんな団地あったのか！」をいくつかピックアップ。古くさくかたいイメージの団地だが、リノベーションによって新しい面白さが生まれている場所も多い。入居者にもまちにもより広くひらかれることで、ここでのくらしを面白がる人が集まる場所になっていく。

演習で見た団地・集合住宅たち

事例見学としてこれまでいろいろな団地・集合住宅を見てきた都市工生。見学で感じた団地のスケール感や設計の工夫、空間の使われ方などは自分の設計に多かれ少なかれ影響を与えたのでは。その分布と、印象に残っているいくつかの団地・集合住宅についての感想を見てみる。時を経てまた訪れたときには、団地を見る視点が少し豊かになっているかもしれない。

事例 一覽

1. 多摩平の森団地 (UR)
 2. 深大寺ガーデン
 3. 光が丘団地 (都営)
 4. シャレール荻窪 (UR)
 5. プラウドシティ阿佐ヶ谷
 6. 亀甲新
 7. 羽根木インターナショナルガーデンハウス
 8. 下北沢 BONUS TRACK
 9. ノミカワフラット
 10. 深沢環境共生住宅
 11. ヌーヴェル赤羽台 (UR)
 12. 月島荘
 13. 東雲キャナルコート Codan (UR)
 14. たまプラーザ団地
 15. 幕張ベイタウン
- *特に記載がないものは民間事業等



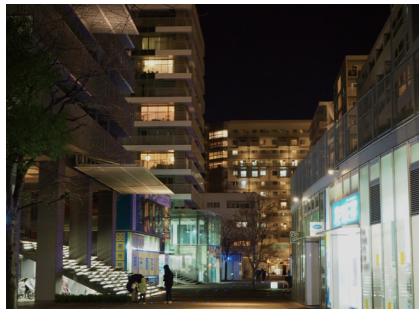
シャレール荻窪

道を挟み隣のマンションが防犯対策のため囲われているのに対し、緑道から直接入れる居室があったり、風を通す開けた配置になっていたりするのが対照的でおもしろい。雨水が鳥の水飲み場に再利用されているのもやさしい。



東雲キャナルコート

すぐ近くに住んでいたことがあり身近な団地。住棟に囲まれる形で保育園が配置されていて、団地の中心に子どもたちがいる感じが明るくてうれしい。夜になるとコモンボイドのあかりがまわりを照らしてくれる。



幕張ベイタウン

独特な世界観を放ち、一つのまちを作り上げている住宅。壁面がきれいに揃っていて、整然とした隙のない感じを与える。マスターアーキテクト方式によるため、個性的なファサードをもつ街区もちらほら。



秋修了生の門出

この秋、都市デザイン研究室から修士1名、博士2名、社会人修士1名が修了を迎える。在学中に地域おこし協力隊として実践活動に励んだ伊藤さん、都市デザイナーとして起業をしながら博士

号を取得した三文字さん、韓国から留学して日本統治時代の韓国について研究した金さん、建築士として設計事務所を運営しながら修了された谷口さん、と多彩な背景を持つ4名を紹介する。

都市工学専攻

伊藤 純也 対象地：山梨県・富士吉田市

非大学所在地方中小都市における大学連携事業参加学生の移住に関する研究 —山梨県富士吉田市を対象として—

近年、大学が地域課題の解決主体として期待されているが、大学が所在しておらず、若者の流出に悩む地方の中小都市においても、大学連携事業出身の若者が地域に移住する意義は大きいと考えられる。本研究では、大学連携事業が継続的に行われている富士吉田市を対象地として、大学連携事業の参加学生がその後地域に移住する過程について、移住者へのインタビューによって調査を行った。



対象地の選定理由と対象地での思い出

プロジェクトに関わり、その後地域おこし協力隊として1年間過ごした富士吉田を対象地として研究を考えた。現地でもちづくりに携わらせていただく中、全国的にも注目される近年の富士吉田のまちづくりの背景には、大学連携事業や、事業をきっかけとした移住者の存在が重要な役割を果たしていたことに気づいた。また、協力隊時代に、富士吉田に大学連携事業で関わる学生の窓口として活動していたこともあり、そうした事業に参加した学生がどのような過程を経て地域に移住をするのか知りたいと思い、テーマを決めた。



学生時代の振り返りとこれからの抱負

大学院時代が一番良かったことは、富士吉田という、自分にとっての「第二のふるさと」ができたこと。プロジェクトでの関わりを超えて、自分が生涯大切にしたいと思える素敵な繋がりを築けたことに感謝をしたい。元々自分は社会学出身ということもあり、入学後に様々な面でギャップを感じ、戸惑い、悩むことが多かった。そうした経験を経て、自分だからこそできる都市への貢献の仕方を考え、まずは経営というフィールドに身を置くことを考えた。一見すると都市とは全く関係のない分野ではあるが、将来的にそこの経験を都市に還元できることができれば幸せだと思う。



中島先生からのコメント

修了おめでとう。本郷ではなく、富士吉田で会うことがほとんどでしたね。ここではないどこかへ、気づくとアフリカへふらっと出かけてしまうような伊藤君が、富士吉田という一つのまちにじっくり腰を落ち着けて、自分の人生の糧になる人とのつながりと指針を確かなものにしていったのには驚きました。これもまた大学院時代ならではの経験だったということでしょうか。これからも自分が大事だと思ったものを信じて頑張ってください。期待しています。

三文字 昌也 対象地：台湾・台北市 / 嘉義市 / 台南市 / 高雄市

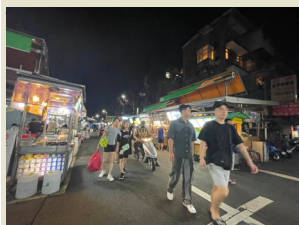
近代台湾における都市生活施設の形成史

都市住民の生活を支える小規模な都市施設に都市性を見出すという近年の議論を都市の歴史的過程に照射するかたちで、都市住民の生活に最も近い施設に基礎づけられたアーバンイズムのありかたを歴史のなかに再発見することを通じて、現代、そしてこれからの都市づくりへの示唆を得ようとする論文です。近代台湾の都市の市街地に形成されていた「都市生活施設」、特に「公衆浴場」「露店」「遊廓」という三つの施設を研究対象にし、施設とその周辺の都市空間の形成とその特質を論じることを目的としています。



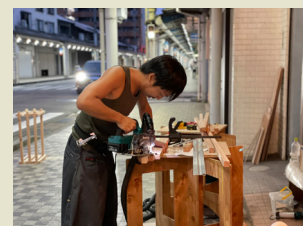
対象地の選定理由と対象地での思い出

台湾は、私が学部時代から連続して対象としてきた場所です。当初は台南市の市街地形成とその設計から始まりましたが、修士論文ではそのスコープを歴史研究に移し、特に遊廓立地と都市計画の関係を題材として扱いました。そして博士論文ではそれらを拡張する形で公衆浴場・露店・遊廓に代表される「都市生活施設」へ拡張した次第です。歴史研究ではあるものの、台湾夜市や亭子腳など現代の台湾都市への興味・関心が根底にあり続けたことが原動力だったように感じます。



学生時代の振り返りとこれからの抱負

私は博士課程に進学したタイミングで起業をさせていただき、その後コロナ禍を迎えました。在学中もほぼ社会人大学院生としての生活となり、遅々として進まぬ研究に長い時間をかけてしまいましたが、中島先生はじめご指導をいただいた先生方にとって温かく見守っていただいたことに心から感謝を申し上げます。実務と研究の二刀流という勿体無い言葉をいただきましたが、これからは博士論文で扱った歴史研究と現場の実務をどのように接続できるかを深く考え、そしてどちらも中途半端になることないよう、これらの二兎をもう少し追ってみたいと思っています。



中島先生からのコメント

博士号取得、おめでとう。堂々たる三文字博士！初めてお会いしたときから、とにかく物事の飲み込みが早く、手と足が動き、そして、都市的なものへの感性が抜群だと思っていました。博士課程では起業もして、果たして研究と実務との二刀流がどうなることかと思って楽しく見守っておりましたが、時間は少し掛けたにせよ、見事にやり遂げました。これからもすぐ後ろを追いかける後輩たちの憧れの存在として、独自の都市デザイナー像を磨き上げていってください。

金 榮俊 対象地：韓国・ソウル市

The Birth and Development of Greater Colonial Seoul (Keijo) (1920-1945)

私の博士研究では、ソウル首都圏の起点となった韓国の植民地時代の「大京城 (Colonial Seoul or Keijo)」について、3つの観点（市民の認識、人々の移動パターン、公共交通の計画）から分析を行いました。研究の意義は以下のようにまとめられます：一、韓国の植民地期の近代都市研究に新たな視点を提供すること。二、近代都市計画史研究に歴史 GIS という手法を適応する方法論を示すこと。三、現代のソウル大都市圏が直面している都市問題の遠因を考察する手がかりを与えること。



出典：1936年2月
発行「京城案内」

対象地の選定理由と対象地での思い出

私は韓国・ソウル市出身であり、東大の博士課程に入るまで約30年間、ずっとソウルで暮らしました。街歩きやドライブをよく楽しんでる親の影響もあって、小さい頃からソウルのビルディング、高架道路、鉄道などを日常的に接しながら育ったので、いつの間にかソウルの都市史、都市計画に関して研究してみたいという気持ちが心の片隅に宿るようになったと思います。

学生時代の振り返りとこれからの抱負

東京大学・都市デザイン研究室では丸4年間過ごしました。最初の2年間はコロナ禍のど真ん中だったので、対面での交流が少なく、大変だったと思います。しかし、後半の2年間では、研究室のみなさんとはもちろん、大学で素晴らしい人々と出会い、色んな場所を訪ねて様々な人生の経験を積むことができました。これからは一人前の研究者として、研究室と社会に恩返ししていきたいです。



中島先生からのコメント

博士号取得、おめでとう。最近は少ない韓国からの留学生、そして都市計画史で博論を書きたいということで、こちらとしても大いに期待して受け入れた経緯があります。コロナ禍で来日は遅れましたが、日本に来てからは抜群の日本語能力と行動力で、研究室にも見事に溶け込んで、頼もしい存在となってくれました。博士論文で探究したテーマをどう発展させていくのか、はたまたまったく新しいテーマに取り組むのか、これからの未来は大きく開かれています。期待しています。

まちづくり大学院

谷口 充良 対象地：東京都・浅草 / 新宿 / 上野 / 池袋など

寄席は蔓延る 寄席の形態的多様化の研究 — 高度成長期以降の東京都を対象として —

本研究は、東京都内の寄席の多様化現象を半世紀にわたり調査し、その要因を分析するものである。現在、定席寄席は4軒に減少したが、寄席は公共ホールや居酒屋など様々な場所に蔓延っている。一見無秩序に映るが何か要因がある筈だと考えた。結果、演者数の増加が影響していると考えられる。地域的な分散化、会場や時間の多様化、小規模化が進行し、若手演者の支援や地域コミュニティの形成を目的とした寄席も存続している。



COLUMN

WEB MAGAZINE

秋追いコン・暑気払い



研究室イベント

秋修了の三文字さんと金さんの追いコン兼暑気払いをしました！皆の夏休みの思い出がキラキラしていました。個人的ハイライトはムービー作りで、エンドロールで全員爆笑してくれて嬉しかったです！（M2 洲崎）

続きはコチラ >>>

<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



廃墟再生マルシェ開催！



みなかみプロジェクト

地域の人と作戦会議や空間づくりを行い、一緒につくり上げてきた今回の社会実験。忠霊塔公園や旧ひがき寮などの4つの会場には、2日間で約4400人が来場し、温泉街をめぐっていただきました！（M2 小林）

MACHI BINGO

マガジン片手に、まちを歩こう



富士吉田 / 台北 / ソウル

プロジェクトで携わる富士吉田のほか、台北、ソウルにも春に訪問していたので、都市工学専攻の3人の修士生の研究対象地から3か所ずつピックアップした。ややマイナーな場所をセレクトしましたが、どこか分かりますでしょうか？（M1 東條）

9

月号担当

M1 星 葵衣



初めてのマガジン主担当、なかなか思うように進まず苦労しましたが、ひとまず発行できたということで及第点だと思います。日々やることに追われていると都市を楽しむということを忘れてしまいそうになるので、自分が楽しい！気になる！と思う気持ちをもっと大事にしたいなと改めて感じました。この気持ちを忘れず、来たるAセメスターも頑張ります！